西日本新聞　平成20年2月5日(火)15面-1

人のつながり大事に

基調講演

大分県日田市大山町「ひびきの郷」総支配人　緒方　英雄氏

福岡都市圏巻き込み改革

日田市大山町は大分県の西部にあり、人口は約四千人。ただ、高速道路などの高速交通網の発達によって、大山町と一時間半で往来できる人口は、七百五十万人です。今日も私は大山町から佐賀市に着くまで一時間十五分しかかかりませんでした。

町の基幹産業は農業で、多くはウメ農家ですが、バブル崩壊後の輸入自由化や価格低下などで、農業だけで生き抜くのが難しくなりました。そこで、産業構造の改革を迫られたのです。

私たちが考えたのは、町の周辺の七百五十万人を狙えば、必ずビジネスの機会が生まれる、ということです。四千人では何もできませんが、福岡都市圏を巻きこんで改革を進めれば、大きなことができると考えたのです。

大山町は、福岡市に「おおやま生活領事館」をつくり、福岡市との交流の場を創出したのです。この領事館は、福岡市との人事交流を行うほどまでに成長し、福岡の経済団体にも加入することができました。

さらに、一九六一年から特産化に取り組んできたウメでの地域おこしを進め、九一年には日本で一番おいしい梅干しを決めるコンクールを開催しました。これがウメ農家の自家製梅干しの品質向上に火を付け、ホテルなどで販売されたり、贈答用品として扱われたりして、大山町のウメが「自前ブランド」として確立していったのです。

梅酒の商品化にも取り組み、二百ミリリットルで二千五百円する高級な梅酒をフランスのボルドーで発表して話題をつくりました。また、福岡市博多区の劇場「博多座」と提携するなどして、福岡都市圏の消費者との接点を増やしていったのです。

変化が求められる時代。私は「Know-how」（ノウハウ）といった方法論は、どうでもいいと考えています。重要なのは、良いものをつくっている人を知ることや、あらゆる分野の人に会い、人とのつながりを大切にする「Know-who」（人を知る）の地域づくりをすることなのです。

基調講演で日田市大山町の実例を語る緒方氏